

高千穂大学 教職課程だより

ご挨拶

教職課程運営委員長 松丸 啓子

高千穂大学教職課程で学ばれた卒業生教員の皆様、今年度をもってご卒業される皆様、在校生の皆様、そして、様々な活動を通じて本学教職課程にご支援を賜っている皆様におかれましては、ますますご健勝にてご活躍のことと存じます。皆様の日頃からの本学教職課程運営へのご理解とご協力に対しまして、心より御礼を申し上げます。

この度、『高千穂大学 教職課程だより』第 11 号をお届けすることができました。この『高千穂大学 教職課程だより』の発行は平成 27 年度より開始されておりますが、その主たる目的は、本学の教職課程で学んだ卒業生の皆様と在校生たち、教職員その他の関係者たち相互の交流の輪を広げ、絆を深めるとともに、本学教職課程における教員養成のさらなる充実と活性化を企図することにございます。そのような趣旨からも、本年度もこうして『高千穂大学 教職課程だより』を発行することができましたことを、本学の教職課程運営に携わる者の一人として大変喜ばしく感じております。

例年 2 月に開催されている「教員採用試験合格報告会」につきましては、コロナ禍には対面での実施がかなわない時期もございましたが、漸く昨年度からは従来通りに対面での開催を再開することができました。おかげさまで今年度も2月8日に開催され、小学校教員試験合格者4名、高等学校教員採用試験合格者2名による合格報告や、卒業生教員2名による実践報告があり、活発な質疑応答が展開されるなど、在校生たちにとって学びの多い機会となりました。また、報告会後には「高千穂大学卒業生教員と教職履修学生との情報交換会(高千穂大学卒業生教員の会)」も久しぶりに開催され、盛んに交流が展開されるなど、従来以上に有意義な会合となりました。

ところで、教師不足が指摘される昨今、各大学に対しては教員志望学生の資質や能力を高めることが求められています。特に、文部科学省の 2023 年5月 31 日付資料「公立学校教員採用選考試験の早期化・複数回実施等について」においては、教員採用試験の早期化・複数回実施に伴う教育実習の実施と教育実習を通じた学生の質向上に対する懸念が示されました。そこで本学では、2025 年度入学生より教育実習を3年次より実施可能とすることとし、それに伴い、教育実習までに十分に教職科目を履修できるよう、一部科目を1年次から履修可能にする配当学年の変更を実施いたします。こうした改変を実施することで、本学の教職履修生たちが新しい時代に相応しい教員としての資質や能力を身につけることができるよう、さらに指導やサポートの在り方をよりよいものにしてまいりたいと考えておりますので、今後ともぜひご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

(人間科学部)

教育実習報告会（7月13日）

2024年7月13日(土)午後12時30分より、1101教室にて、「2024年度教育実習報告会」が行われました。

「教育実習体験報告」として、小学校で教育実習を行ったOさん、高校で教育実習を行ったKさん、Kさん、Hさん、Hさんが、実習中のスケジュール、実習校の紹介、実習中の1日の生活の流れ、研究授業等に関する報告をしました。司会はIさん、Sさんでした。各報告に対して教職課程運営委員の先生方よりご講評をいただき、参加者一同にとって非常に有意義な内容となりました。

報告後は分科会形式をとり、児童教育専攻の学生は実習生と後輩とのグループワーク、商学部・経営学部生は「教育実習カルタ」を楽しみました。いずれの取り組みについても、教育実習に参加した4年生と下級生とが、教育実習について熱心に語る様子が印象的でした。また、昨年引き続き、会場内には展示コーナー(学習指導案や実習中に役立った書籍、文房具など)が設けられ、後輩の皆さんや先生方が熱心にご覧になっていました。

これから教育実習を迎える学生の皆さんには、報告会で伝えられた情報をもとに、教材研究や実習準備を地道に進めていくことが期待されます。本報告会の随所に、先輩から後輩への心のこもったエールが込められていました。運営の準備してくださった実行委員の皆さん、どうもありがとうございました。

(早坂 めぐみ)

学生の声

教育実習報告会をふりかえって

人間科学部4年 S

7月13日、「2024年度教育実習報告会」が開催された。これから教育実習を迎える下級生をはじめとした報告会参加者が「参加してよかった」と少しでも感じられる会にすることを目標に、司会という大役を努めさせていただいた。

今回の報告会では、学部ごとに分かれてワークをする場面を設けた。人間科学部はグループディスカッションを行った。グループの様子はさまざまであったが、時間が過ぎても積極的に質問をしている下級生の姿が印象的だった。今年も例年に引き続き、展示コーナーを設け、言葉で情報を得るだけでなく、実物を見て教育実習のイメージをつかむことができたのではないかと思う。

今年度の報告会を準備から本番まで円滑に進めることができたのは、先生方や関係学生の協力があったからである。また、学びを得ようと参加してくれた下級生の存在がいたからこそ、報告会として成り立っているのだと感じた。下級生の実習がよいものとなるよう願っている。

今回の教育実習報告会に参加して、教育実習に向けての準備が大切だということがわかりました。これは先輩方の発表や、「教育実習カルタ」においても強調されていました。また、準備をしても教育実習では、何かしらの困難を抱えることになると考えられるので、スキルを磨くために今日から心がけて学んでいきたいと思います。

教職課程の先輩方、今回はこのような報告会をしていただきありがとうございました。大事なところをカルタというアクティビティで抜粋して下さったおかげで、よく理解することができました。心より感謝申し上げます。

教職インターンシップ報告会（12月11日）

高千穂大学における教職インターンシップは、教職課程を履修している学生が自ら希望する進路に応じて、大学が指定した小学校、高等学校、教育行政機関等の中からインターンシップ実習先を選び、就業体験を行う取り組みです。授業以外の学校業務を体験することで、学校業務の重要性を理解し、自分の適性と進路を見極めるとともに、教員としての職業意識を高め、学習意欲を喚起し、能力向上を図ることを目的として、2～3年生を対象に実施しています。

本年度は、保善高等学校に4名、杉並区立杉並第二小学校に1名、杉並区立高井戸小学校に1名が、教職インターンシップ実習に参加しました。実習生が参加しやすいよう、夏休み中の9月に教職インターンシップ週間を設け、集中的に実施されました。また、参加校と協議し、教職インターンシップ週間以外でも、学校説明会や文化祭などの行事にも参加しました。

今年度は12月11日に教職インターンシップ報告会が行われ、1・2学年の教職履修者が参加しました。報告会では、教員は生徒に学ぶや成長するためのきっかけを与える仕事であると理解できたこと、また、授業のために教員が行う工夫などを実感できたこと、学校の組織の役割や学校行事の流れが理解できたことが、教職インターンシップ参加者から発表されました。

今年度は新たに、堀越高等学校、杉並区教育委員会と協定を結びました。令和7年度より、保善高等学校、堀越高等学校、杉並区内全ての小・中学校への派遣が可能となります。これにより、より充実した教職インターンシップとなることが期待されます。皆さんの積極的な参加を期待しています。
(崔 玉芬)

学生の声

教職インターンシップに参加して

人間科学部児童教育専攻 2 年 K

私は9月2日から13日まで、土日を除く合計10日間、杉並区立高井戸小学校で教職インターンシップに参加しました。担当したクラスは2年2組で、私の主な仕事は担任の先生の補佐でした。具体的には、授業が円滑に進むように準備を行い、先生が不在の際には児童の対応を

行いました。また、配慮が必要な児童への支援にも力を入れ、常に児童の様子を見守ることを心がけました。給食指導や清掃指導では、子どもたちを見守りながら、チームワークを意識させるよう努めました。

私は教職インターンシップを通して、児童に説明する際には、分かりやすく伝えることの大切さや、教える側が一方的に話すのではなく、適度に質問を入れることで、児童の興味を引く重要性を学びました。教職インターンシップでの経験を今後の教育実習や大学での学びに生かしていきたいと思います。

教職インターンシップに参加して

人間科学部児童教育専攻 2年 Y

私は9月2日から9月13日までの2週間、杉並区立杉並第二小学校で教職インターンシップ実習を行いました。私は主に担任の先生の補助、配慮を必要とする児童への個別支援、給食指導、清掃指導などを行いました。配慮を必要とする児童への個別支援に関しては、落ち着きがなくなった時に声をかけながら、個別課題を取り組ませました。担任の先生の補助としては、プリントの配布や丸付け、児童の整列や移動のサポートを行いました。

私は教職インターンシップを通して、児童に選ばせることの大切さについて学びました。個別課題を設定する際、指示するのではなく、複数の選択肢を提示して児童に選ばせることで、児童が主体的に取り組む姿を見ることができました。教職インターンシップ実習前は、教員という仕事について「やることが多くて大変そう」「毎日朝が早くて疲れそう」といったマイナスなイメージを持っていましたが、実習を通じてその中にも楽しみが多いことに気づきました。教員という仕事は大変なことが多いものの、児童と関わることで、その大変さの中に楽しさややりがいを感じることができました。教職インターンシップでの経験を生かして、これから大学での学びを深めていきたいと思います。

教職インターンシップに参加して

経営学部 3年 N

私は8月22日から9月28日まで、保善高等学校で教職インターンシップ実習を行いました。主に授業見学、授業補助、保健室・図書館見学を行いました。また、通常の授業日以外にも出勤し、模擬試験監督補助や学校説明会補助、文化祭の手伝いなどを行いました。

教職インターンシップを通じて、授業準備の重要性と教員の様々な業務内容を学ぶことができました。授業計画や資料作成を徹底し、授業の導入で生徒の身近な出来事と単元の内容を結びつけることで、生徒が授業内容に興味を持ち、理解しやすい授業ができると実感しました。また、教員の仕事は授業だけでなく、学校説明会、試験監督、文化祭準備、会議や採点など多岐にわたることを知りました。教員は生徒に学びや成長のきっかけを与える存在であり、生徒の興味や意欲を引き出す授業が求められると感じました。そのため、教員には「役者」としての一面も必要で、時に楽しく、時に厳しく生徒に接することで、生徒の成長に良い影響を与えていく心構えが必

要だと気づきました。インターンシップを通して、教員の役割の幅広さとその責任の大きさを学ぶ貴重な機会となりました。

教職インターンシップに参加して

商学部 3 年 M

私は 8 月 22 から 9 月 28 日まで、保善高等学校で教職インターンシップ実習を行いました。主に授業見学、授業補助、保健室・図書館見学を行いました。また、通常の授業日以外にも出勤し、模擬試験監督補助や学校説明会補助、文化祭の手伝いなどを行いました。

教職インターンシップを通して、私は「教育」というものの考え方が変わりました。教育は教員が一人で行うのではなく、他の教員や学校全体で組織として行いつつ、各家庭との連携がとても重要であると学びました。私自身、多くの方々の助けがあって成長したことを実感し、将来の教員人生に活かしていきたいと感じました。教職インターンシップでの経験を、教育実習や今後の学習に活かしていきたいと思います。

教職インターンシップに参加して

商学部 3 年 H

私は 8 月 22 から 9 月 28 日まで、保善高等学校で教職インターンシップ実習を行いました。主に授業見学、授業補助、保健室・図書館見学を行いました。また、通常の授業日以外にも出勤し、模擬試験監督補助や学校説明会補助、文化祭の手伝いなどを行いました。

教職インターンシップを通して私は、教員間での連携の大切さを学びました。教室で見せる顔だけが全てではなく、図書室や保健室にいる時など、ホームルーム以外での生徒の様子を共有することが非常に重要であることを実感しました。リアルな教育現場を体験し、自身の教師像を改めて見返す機会にもなりました。また、教育実習に取り組む中で緊張感も和らぎ、より一層教員になりたいという気持ちが強くなりました。

教職インターンシップに参加して

商学部 3 年 W

私は 8 月 22 から 9 月 28 日まで、保善高等学校で教職インターンシップ実習を行いました。主に授業見学、授業補助、保健室・図書館見学を行いました。また、通常の授業日以外にも出勤し、模擬試験監督補助や学校説明会補助、文化祭の手伝いなどを行いました。

教職インターンシップを通して私は、コミュニケーションの取り方を学びました。先生方はお忙しいため、授業後の挨拶や質問に伺う際には、事前に伝えることを整理しておくことや、次の教室へ移動しながら伺うことが重要だと感じました。生徒とのコミュニケーションに関しては、より多くの生徒と関わるために、休み時間ごとに教室内での居場所を変えることの大切さを学びました。実際に教育現場で多くのことを経験し、学ぶことで、今後の教育実習や実際に教員になった時のイメージが湧きました。

教員採用試験合格報告会（2月8日）

令和7年2月8日(土)に今年度の高千穂大学教員採用試験合格報告会及び卒業生教員の会が開催されました。

第1部は教員採用試験合格報告会です。早坂先生の司会のもと、セントラル・スクエア2階のタカチホホールで盛大に行われました。最初に、学長の寺内先生よりご挨拶をいただきました。先生からは、高千穂大学の学生は、この教員採用試験合格報告会と卒業生教員の会をたいへん有意義な行事であるとの認識を持つようにとの御話をいただきました。私も同様に、高千穂大学の学生は、この会があるおかげで、貴重な話を聞くことができます。他大学の学生より半歩リードすることができると思います。

まず、教員採用試験合格の体験報告です。

最初に、小学校に合格した4名の方からの話がありました。Oさん(人間科学部児童教育専攻4年、鈴木隆弘ゼミ、東京都合格)、Yさん(人間科学部児童教育専攻4年、長谷川ゼミ、東京都合格)、Yさん(人間科学部児童教育専攻4年、徳田ゼミ、川崎市合格)、Iさん(人間科学部児童教育専攻4年、徳田ゼミ、東京都合格)の皆さんです。Oさんは採用試験での合格、Yさんは東京都教師養成塾特別選考での合格、Yさんは川崎市の大学推薦での合格、Iさんは東京都の大学推薦での合格とそれぞれが違う道での合格です。学生諸君は興味深く話を聞いていました。実際の学科試験や小論文試験、さらに面接などについて、実施された日時や具体的な内容、そのための勉強方法などについての貴重な話を聞くことができました。

続いて、私立高校情報科に合格したHさん(経営学部経営学科経営法務コース、早坂ゼミ)、東京都の商業科に合格したKさん(商学部商学科マーケティングコース4年、齋藤典明ゼミ、東京都合格)の話がありました。高等学校の商業科への現役合格は、約20年ぶりだそうです。このようにこれからも商業高校にたくさんの人材を輩出している高千穂大学の伝統が引き継がれていくことでしょう。Kさんから、1次試験に合格したあと、2次試験にある面接試験のための練習を教育実習でお世話になった東京都立第五商業高等学校の先生方をお願いしたとの話があり、聞いていた学生たちはその熱意に驚いていました。

次に卒業生教員による教育実践報告です。

中央学院大学中央高等学校のA先生(2016年度商学部商学科会計コース卒業、西山ゼミ)と西東京市立柳沢小学校のS先生(2019年度人間科学部児童教育専攻、松丸修三ゼミ)の2人の本学卒業生の先生方をお招きして教育実践報告をしていただきました。やはり現在、教壇に立っており、何十人の生徒を相手に授業をしているので、落ち着いていて話が上手でした。小学校や高等学校の教育現場の難しさや忙しさと同時に、生徒とともに楽しく仕事をしている様子が伝わってきて、教職課程を履修している学生にはたいへんよい刺激になったと思います。先輩たちは楽しそうだなあ、がんばっているなあという雰囲気を実践報告の中にひしひしと感じられて、たいへんよかったです。

続いて、杉並区教育委員会統括指導主事の加藤則之先生よりご講評をいただきました。力強い叱咤激励のお言葉をいただき、この場を借りて改めて御礼申し上げます。

そして、最後に教職課程運営委員長の松丸啓子先生より総評のお言葉をいただきました。改めてご参加いただいた皆様に深く感謝するとともに、来年もまた多くの卒業生にご参加いただけます様、お願い申し上げます。 (松丸 明弘)

卒業生教員研究交流会 (2月8日)

第1部に続いて「卒業生教員と教職履修学生との情報交換会(卒業生教員研究交流会)」が開催されました。

まず、本学崔玉芬先生から「学校現場における教育心理学の活用」と題した講演が行われました。本講演では、「特別の教科 道徳」における評価をどのように行うかについて、教育心理学の知見から尺度開発を実施した結果についての報告、また防災意識に関する研究の報告が行われました。大変興味深い内容に、参加者からは現場での応用方法などについての質問などが寄せられました。

続いて、会場をカフェテリアに移し、卒業生と学生、大学教員、そして卒業生同士の交流を深める情報交換会が開催されました。寺内一学長による乾杯の挨拶の後、OB教員の先生からの近況報告、第1部でご登壇いただいたA先生、S先生からもご報告をいただきました。教採合格者と現場の先生、そして学生との交流も活発に行われ、採用試験合格に向けた対策だけでなく、教育とは何か、教員としての大切さなどについてご指導をいただくことができました。

多くの先輩方が参加され、後輩へと繋がる素晴らしい会となりましたが、ようやく新型コロナウイルス感染症蔓延以前のような、完全な形での会の開催となりました。研究者・実践者からの研究報告も内容に追加され、交流だけでなく、実践・研究にも実りある会へと変わりつつあります。来年度は、さらに多くの先輩方にもご参加いただければと思います。ありがとうございました。

(鈴木 隆弘)

教員採用選考 合格体験記

今年度、教員採用選考に合格した3名の方々に、対策の仕方や実際の選考を経験してのアドバイスについて寄稿していただきました。後輩の皆さんは、先輩方のアドバイスを受けて、来年度の教員採用選考に備えてください。

夢に向かって学んだ4年間

人間科学部4年 I

私は、子どもたちの夢や可能性を広げたいという思いから、教師の道を志しました。

教員採用試験対策では、特に面接対策に力を入れて取り組んできました。筆記試験はもちろん大切ですが、面接では、児童との具体的なやり取りや、指導方法などが問われるからです。そこで、1年生から児童と関わるボランティア活動に積極的に参加し、子供たちの成長を日々感じながら私自身も勉強になる時間でした。また、大学では面接対策講座を受講し、過去の試験傾向や面接指導、場面指導について、経験豊富な先生方に丁寧に教えていただきました。これらの経験が、本番での自信につながり、教員採用試験に合格することができました。

教員になりたいという夢を先生方がしっかりとサポートしてくださる環境が高千穂大学にはあります。学生一人一人に寄り添ってくださるので、夢に向かって頑張ってください！

教師の大変さとやりがいを実感した1年間

人間科学部4年 Y

私は、学校現場で多くの経験を積んでから教員になりたいと考え、東京教師養成塾に入塾しました。東京教師養成塾では、教員免許取得のための4週間の実習に加えて、年間40単位以上の授業実践をしたり、授業づくりや学級経営について学ぶ講座を受講して経験を積んできました。

授業実践では、思うように授業を進めることができず悩んだこともありましたが、子どもたちの「分かった！」「できた！」という言葉が聞けた時、やりがいを感じる事が出来ました。教育実習前に大学で模擬授業をしますが、その時に授業を行う部分の学習指導要領や指導案を読んで触れておくと、実際の教育実習の時に役立つと思います！また、教育実習中は分からないこと、知らないことがあって当然だと思うので、積極的に実習校の先生方に質問をすると良いと思います！皆さんが教育実習が終わる時に「頑張ってたよかった」と思えるような実習になることを期待しています。頑張ってください！

教員採用試験合格に向けて意識したこと

商学部4年 K

私は、2024年度東京都教員採用試験に合格いたしました。科目は商業です。第一次選考は、教職教養、専門教養、小論文です。第二次選考は個人面接です。このような試験内容で、私が教

員採用試験の合格に向けて意識したことを 2 つあります。

1 つ目は、過去問研究です。私は、東京都教員採用試験の商業科を受験しました。まず、受験するにあたり、どのような問題が出題されるか、東京都教員採用試験の過去問から過去問研究をしました。そこで、分かったことは、様々な分野が満遍なく出題されたことです。しかも、教科書会社によって教員採用試験に出題されやすい教科書と出題されにくい教科書があることを知ったことは試験対策として効果がありました。さらに、東京都は独自の問題が教職教養や小論文に出題されやすいため、東京都公立学校教員採用ポータルサイトを随時確認しておくことをお勧めします。

2 つ目は、限りある資源を活用したことです。この限りある資源とは、お世話になった先生方や大学の図書館、教職相談室を活用したことです。具体的に、面接対策では、東京都立江東商業高等学校校長の T 先生、私の教育実習校である、東京都立第五商業高等学校校長の N 先生、同じく東京都立第五商業高等学校の科目指導教員である K 先生、本学の教職担当である鈴木先生、松丸明弘先生に面接対策をしていただきました。また、勉強する際はなるべく自宅で勉強するのではなく、大学の図書館で勉強していました。大学の授業終わりに図書館で日によっては 21 時まで勉強していたことがあります。図書館は集中しやすい空間であるため、勉強するには最適な空間です。

試験当日は、余裕を持って試験会場に到着することをお勧めします。第一次試験には、当日の朝 6 時半ごろには、会場付近に到着して試験の対策をしていました。また、二次試験の 1 時間前には近くファミリーレストランで面接対策をしていました。

上記のことから、教員採用試験合格に向けて事前に準備をし、教員採用試験対策を先生方をお願いすることが大切であると考えます。

最後になりますが、教員採用試験合格にあたり教職員の皆様に心より感謝申し上げます。今後とも、どうぞよろしく願いいたします。

○本年度教員採用者について

2024 年度新規教員採用者は名(3 月 1 日現在:教務課把握分、教諭のみ)です。

卒業生教員の皆様におかれましては、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

<小学校教諭採用>

I (東京都) O(東京都)

Y(川崎市) Y (東京都)

<中学校・高等学校採用>

K (東京都) H(私立高等学校)

教職課程での学びをふりかえる

教職課程を履修した3年間をふりかえて

経営学部 4年 K

教職課程を履修することによって、私は充実した3年間を過ごすことができました。その3年間を通じて、新たな視点から教育という仕組みをとらえることができましたと感じています。私自身は教師でなく、一般企業に就職するという選択をしましたが、一方で人に教えるという行為を深く学んだことは今後企業で活躍していくシチュエーションにおいても役に立っていくと確信しています。何故なら、人材育成という観点からも教育の理論は必要であり、活かしていけると考えているからです。

4年の春学期に参加した教育実習では、実際に高校に訪問することで実際の教育現場を体感すると共に、模擬授業を通して人にわかりやすく物事を教える難しさを痛感しました。しかしながら、実習校の生徒や先生方からのフィードバックを参考に教え方を改善することで、より質の高い教え方を実現していくことができるようになっていきました。そういった意味で、座学で学んだ教育の理論に加えて、教育実習で培った実践的な教育手法を習得したことで、人に物事を教えるスペシャリストに近づけたと感じています。

今後はこの経験を活かすことで、全力で社会に貢献していきたいと考えます。改めまして、これまでご指導いただきました教職課程の先生方及び支援いただきました本学職員の皆様に感謝申し上げます。

<本学教職課程の概要について>

(1) 取得可能な免許種

高千穂大学教職課程では、以下の免許を取得することができます。

免許状はすべて一種教育職員免許状です。

学部	専攻	取得可能な免許種
商学部		高等学校(商業)／高等学校(公民)／高等学校(地理歴史)／中学校(社会)
経営学部		高等学校(商業)／高等学校(情報)
人間科学部	人間科学	
	児童教育	小学校(全科)

※ 商学部では、高等学校(情報)／経営学部では、高等学校(公民)(地理歴史)・中学校(社会)免許状取得も可能。

(2) 年間行事予定

教職課程では、教職課程運営委員会の下、主に以下の行事を実施しています。(予定)

月	行事	内容
4月	履修ガイダンス	春学期履修に向け、学年ごとに実施します。
7月	教育実習報告会	教育実習を終えた学生が、教育実習の体験を報告します。
9月	履修ガイダンス	秋学期履修開始者を対象に実施します。
11月	新規履修希望者ガイダンス	翌年度より新規履修を希望している学生を対象にガイダンスを実施します。
2月	教員採用試験対策講座	教員採用を目指す2・3年生の希望者を対象に、採用試験対策講座を行っています。
	教職課程新規履修者面接	教職課程新規履修者希望者を対象に、面接を行い、履修の可否を決定します。
	教員採用試験合格報告会 卒業生教員の会	教員採用試験合格者及びお招きしたOB・OG教員より、合格までの道のりや教員生活の心構えなどをお話頂きます。

※教職課程履修者は「ガイダンス」「教育実習報告会」「教員採用試験合格報告会」参加が義務付けられます。

卒業生及び卒業された皆様へ

- 勤務先の変更・ご自宅の住所変更時
- 「学力に関する証明書」「単位取得証明書」等、証明書が必要な時
- 教職課程及び就職支援課に対する、私立学校等からの求人を知りたい時 等

以上の際には、学務部教務課までお問い合わせください。

[TEL:03-3313-0146](tel:03-3313-0146) MAIL:kyoshoku@takachiho.ac.jp

<目次>

- ご挨拶…………… p.1
- 行事紹介…………… pp.2-7
- 合格体験記…………… pp.8-9
- 本年度教員採用者
について…………… p.9
- 教職課程での学び
をふりかえる…………… p.10
- 事務連絡・編集後
記・奥付…………… pp.10-11

編集後記

今号も教職課程運営委員の先生方や履修学生のお力添えにより、充実した誌面となりました。多大なるご協力を賜り、ありがとうございました。卒業される皆様のご健康とさらなるご活躍を祈念いたします。(早坂めぐみ)

「高千穂大学教職課程だより」第11号

2025年3月20日発行

<2024年度 教職課程運営委員会>

委員長 松丸啓子 常任委員 早坂めぐみ

委員 鈴木隆弘 委員 松丸明弘 委員 崔玉芬

委員 大島久幸

教務課 北田大介・福司麻貴